

学校の教育目標

・心の豊かな子ども ・よく考える子ども ・たくましい子ども

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

・基礎学力を確実に身に付けさせると共に、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。 ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を育成する。
--

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「わかった」「がんばってよかった」「以前学習した事柄や方法が使える」と言える指導を行う。 ・個別指導やグループ指導といった学習形態の導入や理解の状況に応じた繰り返し指導などの学習活動を取り入れて指導内容の定着を図る。 ・算数科では東京都方式の習熟度別指導ガイドラインを活用し、児童の実態に応じた習熟度別少人数指導を行う。 ・東京ベーシックドリルを活用し、つまずきに立ち戻ったり、個々に応じた発展問題を工夫したプリントを使ったりして、さらなる習熟を図る。 ・「家庭学習キャンペーン」を各学期一回実施し、家庭学習の習慣を身に付けさせ、個別の課題に取り組ませる。 ・「放課後月二さんすう塾」と「夏休み月二さんすう塾」を定期的実施し、東京ベーシックドリルの診断テストの全員合格まで一人一人のつまずきに対応する。
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が多面的、多角的に考え、発表し合う場を計画的に設定し、それぞれの考えを深めさせる。 ・自分の考えや友達の考えを「書く」活動を様々な場面で取り入れ、よりよい考え方や表現方法を学ばせる。 ・発言・発表の仕方を指導するとともに、自分の考えを相手に伝える場面を取り入れることにより表現力を養う。 ・学び合いの時間を確保し、よりよいものになるよう互いに高め合えるようにする。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で粘り強く問題を解決する場や課題の設定の工夫をし、満足感や充実感が実感できる指導を行う。 ・わかる授業を行い、意欲的に取り組めるようにする。また、わからないところまで立ち戻る指導を充実させる。 ・グループ学習を取り入れ、自分の言葉で相手に伝えることを意識させる。 ・問題解決的な学習を取り入れ、主体的に学習する姿勢を養う。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題 ○結果分析から明らかになった成果 ▲結果分析から明らかになった課題			
	第 4 学 年	第 5 学 年	第 6 学 年
国 語	○全体的に全国平均を上回り、読む能力については11.9ポイント上回っている。	○全体的に都平均を4.9ポイント上回っており、良好である。特に言語の知識・理解については、	○全体的にほぼ全国平均である。「話すこと、聞くこと」では全国平均より2.3ポイント上回っている。

	<p>▲書く能力については全国平均を1.6ポイント、区平均からは8.7ポイント下回っており言葉の学習や作文、書くことに課題が残る。</p>	<p>10.4ポイント上回っている。</p> <p>▲関心・意欲・態度について、都平均を5.5ポイント下回っていたり、取り出す力が10.3ポイント下回っていたりすることが大きな課題である。</p>	<p>▲漢字を書く問題について全国平均を9.2ポイント下回っており、書く能力についても5ポイント下回った。大きな課題と言える。</p>
算 数	<p>○全ての観点で全国平均とほぼ同程度で良好な状況である。数学的な考え方については8.7ポイント上回っている。</p> <p>▲数量や図形についての知識・理解について、特に「長さ・重さ」で適切な単位が使えていないことが課題となり、区平均を7.3ポイント下回った。</p>	<p>○全体的に都平均を上回っている。特に思考・判断・表現については11.1ポイント上回り、活用の力も付いてきている。</p> <p>▲学力的に良好であるにも関わらず、関心・意欲・態度の観点で0.5ポイント下回っており、学習への興味関心をもてるような指導の工夫が課題である。</p>	<p>○全国平均とほぼ同程度であり、知識については都平均と同じであった。</p> <p>▲「合同・立体」の問題については全国平均より9ポイント下回っている。また、全国学力調査からは活用する力が都平均を3ポイント下回っていることがわかった。昨年同様に活用する力についての課題が残った。</p>
社 会	<p>○全国平均とほぼ同程度であり、良好である。</p> <p>▲社会的な思考・判断・表現については区平均を4.9ポイント下回り、目標値に到達していない児童も多かったことが課題として残る。</p>	<p>○全体的に都平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況である。</p> <p>▲知識・理解で3.4ポイント、資料を読み取る力については4.3ポイント都平均を下回り、課題として残る。</p>	<p>○全国平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況である。特に「自動車をつくる工業」の問題は全国平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>▲「世界の中の国土」の問題については区平均を11.7ポイント下回り、課題として残る。</p>
理 科	<p>○全国平均とほぼ同程度である。観察・実験の技能については区平均を4.2ポイント上回った。</p> <p>▲ほぼ全国平均であるが、全体的に数字は下回っており、自然事象への関心・意欲・態度は7.3ポイント、「物質・エネルギー」の領域については6.3ポイント下回り、大きな課題として残る。</p>	<p>○全体的に都の平均を2.7ポイント上回り、関心意欲も高い。</p> <p>▲読み解く力に関する内容で1～2ポイント下回っているため、問題解決的な学習の進め方の工夫が課題となる。</p>	<p>○全国平均より下回っているが、問題解決学習の流れを理解し、よく考察もしており、意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>▲全ての観点で全国平均を下回り大きな課題となった。特に「ふりこのきまり」と「天気の変化」に課題が残る。領域では「生命・地球」、観点では「自然事象への関心・意欲・態度」に課題がある。</p>

<p>調査以外の教科についての成果(○)と課題(▲)</p>	<p><音楽> ○全体的に音楽に対する関心・意欲は高い。低学年は楽しく元気よく歌っており、中学年になると美しい歌声を意識するようになり、さらに高学年では響き合い、調和の取れた合唱を目指して積極的に取り組んでいる。器楽については低学年では鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能習得に意欲的である。さらに高学年では自分たちの思いを友達と関わり合いながら創意工夫して表現するようなグループ活動にも積極的に取り組んでいる。 ▲器楽における技能面での個人差についての個別支援の時間確保が課題である。</p> <p><図画工作> ○各学年とも積極的に学習に取り組んでいる。また、道具の使い方など理解して安全に使える児童が多い。表現の創意工夫も多様性があり、友達の作品や作家の作品に対して積極的に関心を示している。 ▲技能面での個人差が大きく、発想を広げられない児童への個別支援の方法の工夫が課題である。</p> <p><家庭> ○5・6年生ともに意欲的に取り組んでいる。 ▲技能に関する苦手意識をもっている児童への個別指導が課題である。</p> <p><体育> ○体育に対する関心・意欲が高く、友達と関わりながら協力して楽しく活動している。 ▲めあてに向かって粘り強く運動に取り組むことの個人差や運動量の個人差によって、体力面や技能面での二極化が大きくなっている。3年生の器械運動「マット運動」では前転及び後転での腕の支えが課題になっている。</p>	
<p>調査以外の学年について1学期の学習における成果(○)と課題(▲)</p>	<p>第1学年</p>	<p>(国語) ○ひらがなを丁寧に読み書きするという習慣が付き、楽しく読んだりひらがなを書いたりしている。また、要点を捉えて話を聞いたり、友達同士で発表したり、意欲的に取り組んでいる。 ▲相手に伝えるための声が小さい児童がいる。 ▲拗音や促音を理解していても正しく表記できない児童がいる。</p> <p>(算数) ○数や加法・減法に触れ、ブロック操作や図を書くことをしながら考えることを通して、自分で考えながら楽しく学習することができた。 ▲10の構成や繰り上がり、繰り下がりのない加法・減法を速く正確にできない児童がいる。また加法より減法のミスが多い。</p>
	<p>第2学年</p>	<p>(国語) ○本を読んだり見たりすることへの意欲が高い。また構成を考えてから書くこともほとんどの児童ができる。 ▲言語について、教科書程度の文章でも言葉として「知らない」と訴える児童が数人いる。</p> <p>(算数) ○計算に関する関心・意欲は高い。計算の仕方を理解し、正確に行える。 ▲どうしてそう考えたか「理由」を考え表現することを苦手とする児童が多い。 ▲長さやかさの単位を理解して覚えていない児童が数名いる。</p>

	第3学年	<p>(国語)</p> <p>○意欲的に取り組んでおり、特に漢字の学習への関心が高い。</p> <p>▲自分の思いや考えを適切な言葉遣いで表現することが苦手な児童が多く、書くことに課題がある。</p> <p>(算数)</p> <p>○算数は少人数指導のため、自分のペースで学習でき、意欲的に取り組んでいる。発言も積極的である。</p> <p>▲文章問題を読み取り、考えて解決することや計算のきまりを理解し、説明することが苦手な児童が多いことが課題である。</p>
--	------	---

<p>昨年度の授業改善プランに基づく結果 (○) と主な課題 (▲)</p>	
<p>○国語では「書く」ことについては、物語の感想の書き方や要点を押さえたメモの取り方、文章構成や話型の提示などで「書く」表現力が高まり、自分の言葉で考えをまとめられるようになってきた。また「読むこと」については、読みの向上につながるように動作化など体験的な活動を取り入れたり、デジタル教材を活用したりすることで、意欲をもって取り組むようになった。</p> <p>▲言葉の学習や作文、書くことについては個人差が大きく、言語についての知識・理解・技能の習得に課題が残る。</p> <p>▲さらに文章を深く読み取る力を付けていくことも課題である。</p> <p>○算数ではペア学習やグループ活動など、学び合いの場を設けることで、問題を捉え、自力で解決していこうとする力が育ってきている。</p> <p>▲基礎は定着してきているが、活用する力に大きな課題が残る。</p> <p>○大型テレビやプロジェクターなどによる拡大した画像等の活用に関心が高まり、学習に主体的に取り組むようになっている。</p>	

<p>改善の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」態度や「書く」等、言葉を使いこなす力を高める。言葉についての知識・理解・技能を高めることと表現する力を伸ばすことの両面からの指導の工夫をする。また、「読むこと」についても多くの文章に触れさせ、読み取る力を高める指導法の工夫をする。 ・学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識した学習展開を工夫する。 ・思考力・判断力を向上させるために児童の興味を引くような教材の工夫をする。 ・基礎学力の個人差に対応するため、個別指導の時間の確保や方法について工夫する。
--------------	---

<p>【本校の授業改善に向けた具体的な方策】</p>	
<p>改善のための指導計画</p>	<p>○児童の実態に合った指導計画を作成し、計画的な指導と繰り返し指導を行う。</p> <p>○国語科では年間を通して「書く」「話す・聞く」の機会を増やし、表現力を高める指導の工夫を行う。また読書、読み聞かせや視写などの機会を増やし、文章を深く読み取る力や想像力を育てる指導の工夫をする。</p> <p>○算数科では、算数少人数担当との連携を深め、計画的に指導を進める。また既習事項を活用して問題を解決する学習を重点的に行う。</p> <p>○学習形態を工夫したり、考える時間を確保したりすること</p>

	<p>で、思考力を高める。</p> <p>○指導時間内に、どの児童も進歩を実感できるよう指導計画の精選と指導方法の工夫を行う。</p> <p>○各教科の学習で自分の考えを表現する力を高める。</p>
改善する指導内容 (教科、領域、観点等)	改善のための指導方法、指導体制
学習意欲を高める工夫	<p>○「めあて」「まとめ」を明確にしなが板書・ワークシートを工夫する。</p> <p>○診断テストの全問正解など基礎が定着している児童については発展的な問題に取り組みせ、関心意欲を高めるようにする。</p> <p>○算数では単元ごとにレディネステストを行い、コースガイドンスに基づいたクラス分けをすることで、理解度に合わせた確かな指導を行う。</p> <p>○パワーアップ学習や放課後などを活用し、学習の定着に不安のある児童には東京ベーシックドリル等を活用し、個別指導を行う。また診断テストの全問正解など基礎が定着している児童については発展的な問題に取り組みせ、関心意欲を高めるようにする。</p> <p>○ユニバーサルデザインの考え方を一層取り入れ、分かりやすい指示の出し方や板書の書き方、教室掲示、2人組による対話のさせ方、ICTの活用について検討する。</p> <p>○要支援対象児童への学習意欲を高める言葉かけを十分に行う。つまずきを適切に見取り、学習指導補助員と連携して指導する。</p> <p>△振り返りを書く時間を確保し、児童の理解度の把握や次時の授業展開に生かす。</p> <p>△ヒントカードの提示で、つまずいている児童が自力解決できるようにする。</p> <p>△各教科で根拠をともなった考えを書かせる場面を設定する。</p> <p>△理科では実験ごとのワークシートやノートチェックを行い、児童の思考力を見取る。</p> <p>△社会、理科では、丁寧なノートづくりを指導し、学んだことや自分の考えを書いて整理する習慣を身に付けさせる。</p> <p>○季節や行事で経験したことを基に俳句をつくったり、報告する文章や記録する文章を書いたりする。</p> <p>△文章構成の大枠を作成し、書きやすくする。</p> <p>△「はじめ」「なか」「おわり」の型に沿って作文を書いたり、語彙を増やして多様な表現で感想文を書いたりできるようにする。</p> <p>△文章構成や話型などを掲示し、正しい書き方を身に付けさせる。</p> <p>△全校朝会での校長講話の内容と自分で考えたことをまとめさせる。</p> <p>△作文の手本となる型を適宜提示し学ばせる。</p>
個に応じた指導	
国語「書くこと」	

<p>国語「話す・聞く」</p>	<p>△文章構成が苦手な児童に対して、箇条書きで内容を整理させたり手本となる文を示したりして、見通しをもたせるようにする。</p> <p>△200字程度で自分の考えの根拠も述べられる文章構成をさせていく。</p> <p>○言語能力を高められるような場面を多く設定する。(話形の提示、短作文の日常化など)</p> <p>△話合いの話形を定着させるとともに、友達の話聞いて「同じ」「似ている」「異なる」の意思表示をハンドサインで行う。</p> <p>△友達の発表を聞いて感想や意見を述べる機会を増やす。</p>
<p>国語「読むこと」</p>	<p>○読書の機会を増やし、多くの文章に触れさせる。</p> <p>△単元の流れや、本時の流れなど、見通しをもって学習できるような板書を工夫する。</p> <p>△掲示物や ICT 機器を活用したり、動作化など体験的な活動を多く取り入れたりして、読みの向上につながるような授業展開をする。</p> <p>△教材の関連図書を教室に置いて、日頃から児童が本に親しむ環境を作る。</p>
<p>国語「言語について」</p>	<p>○漢字学習については、家庭学習や朝の学習などで繰り返し練習することで定着を図る。</p> <p>△できるだけ多くの熟語を通して漢字を学習させ、書き順の練習を含めて指導していく。語彙力を増やし、正しい言葉の理解につながるよう日記指導を継続して行う。</p>
<p>算数「関心・意欲・態度」</p>	<p>○習熟度別学習のコース分けで児童の実態を丁寧に見取り、コースに合った単元計画で授業を進めていく。</p> <p>○基礎が定着している児童については発展的な問題の自力解決に取り組みせ、関心意欲をさらに高めるようにする。</p> <p>△ゲームなども取り入れ、数に関する興味・関心が高まるような指導をする。</p> <p>△ブロックや数字カードを多く活用して児童が楽しみながら参加できる学習を展開する。</p>
<p>算数「数学的な考え方」</p>	<p>○問題解決の時間を重視し、「問題把握→自力で課題解決→グループや全体での学び合い」の授業で思考力を高めていく。</p> <p>△問題解決学習の時間の在り方を検討し、自分の考えを発表する時間を重視する。理由をきちんと話す習慣を付ける。</p> <p>△問題解決学習の時間を重視し、ブロック操作をしたり、図、式、言葉や文章を書いたり、グループで話し合ったりする学習を多く取り入れる。</p> <p>△問題文を「分かる情報」「きかれていること」に分けて読み取る方法を徹底して指導する。</p> <p>△問われていることをしっかり捉えながら考え、自分の考えを発表する時間を重視し、どのように自分の考えを説明すればよいか話形を決めて取り組む。</p>
<p>理科「関心・意欲・態度」</p>	<p>○自然事象の変化などに関心をもてるような体験的学習や活動を計画的に行えるようにする。教師の予備実験や観察など、事前の教材研究や準備を充実させ、児童の知的好奇心を喚起する問</p>

理科「思考・表現」 「知識・理解」	<p>いかけなどで日常的に理科学習への関心・意欲・態度が高まるような工夫をする。</p> <p>△思考場面で助けとなるようなキーワードを準備し、思考の流れが定着していくようにする。</p> <p>△実験後のワークシートやノートチェックではコメントを入れ、必要に応じて個別指導で表現力を高める。</p> <p>△視覚的理解を促すための資料を効果的に活用し、用語の定着を図る。その上で現象の理由を、用語を適切に用いて話したり、書いたり、説明したりする活動を授業に多く取り入れる。</p>
評価活動の工夫	<p>○学習後、学習の様子や理解について、児童に自己評価や相互評価する時間を設定することにより、学習意欲を高める。</p> <p>○ノートやワークシート、ポートフォリオ等、多面的に児童の学習状況を把握する。</p> <p>○座席表に児童の発表や反応、つぶやき等を記録し、評価と支援に生かす。</p>
家庭や地域との連携の工夫	<p>○個人面談で児童の学習状況や努力の様子を伝え、保護者と共通理解を図る。</p> <p>○必要に応じて家庭と連絡を取り合い、個別指導や問題解決に当たる。</p> <p>○学校だより、学年だより、学級通信等で学校での取り組みや学習内容、持ち物などに対してきめ細かに知らせる。</p> <p>○各学期に一週間程度「家庭学習キャンペーン」を実施し、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>○家庭で音読を聞いてもらったり、ドリル等の進捗状況を伝えたりし、励ましを奨励する。また、保護者が児童の習熟度を把握することに役立てる。</p>
検証方法	<p>○教員相互で授業公開し、授業評価を行って分析する。</p> <p>○保護者、学校評議委員、外部評価委員の評価等、外部評価を実施する。</p> <p>○学習力サポートテストや都学力向上調査等の分析を行う。</p>

<p>【学力向上を支えるその他の取組】</p> <p>○校内研究では「一人一人の“わかった！できた！”を目指して～ユニバーサルデザインの授業づくり～」を研究主題として取り組む。</p> <p>○毎週火、木曜日の朝学習時に東京ベーシックドリルや本校独自作成のプリントを利用して、漢字や計算に取り組ませることで基礎基本の定着を図る。また、校長・副校長・専科教員が補助に入り、つまずきのある児童を支援する。</p> <p>○読書月間を設け、学校と家庭で読書に親しむことで多くの文章に触れ、児童の世界観を広げる。</p> <p>○「放課後月二さんすう塾」と「夏休み月二さんすう塾」を実施し、東京ベーシックドリルの診断テストの全員合格まで一人一人のつまずきに対応する。</p> <p>○OJT 研修で読み聞かせの実技研修を行い、読み聞かせの技法や本の選び方などを学び、子ども達との心のコミュニケーションを一層深め、豊かな想像力や聞き取る力を育てる。</p>
--